

# 歴史学の専門研究のために「ことばと学知の OS」をアップデートする方法 ～もしくは同業者に比べて読書量は大きかったことがないが新聞を読んだ量なら 負けない自信がある一学者の挑戦～

桃木至朗 (大阪大学名誉教授)

[momoki@let.osaka-u.ac.jp](mailto:momoki@let.osaka-u.ac.jp)

**要旨:** ある学問の専門研究には、その意味や目標・方法を自覚的に考えることが必須だが、それは他の学問との比較無しには不可能である。その面での現代日本の歴史学の特徴は、個別具体的な研究テーマや方法の多彩さ・高度さと裏腹に、学問の性格を考えることがきわめて散発的・分散的にしかおこなわれていない点にある。この講義の例年の受講生も、そうした問題を満足に語れる者が少なすぎる。そうなる理由は、そのような考察や活動の基礎として高校や大学(学部)で学ぶべき、学問論や言葉づかいなどの「教養」(パソコン・スマホにたとえれば OS) が古く、ほぼ「ウインドウズ登場以前」の状態にあることではないか。現状の学生は、高度教養教育や人文学共通科目などのかたちで 2~4 単位程度学ぶことが望ましいのだが(「コロンブスの卵」だらけの授業になるはずである)、今回はとりあえず問題提起をおこない、何が自分たちに必要かを受講生諸君が考えるいとぐちを示したい。

**キーワード:** 教養教育、学問論、ことば、正しさ、学問の意義

**今日の小課題:** 『市民のための世界史』序章から、歴史を学ぶとどんな知識・理解が得られ、それを通じてどんな力が付くかを述べている部分を抜き出して、それらを要約・論評せよ。

## 1. 問題意識と問い<sup>1</sup>

**メインクエスチョン:** 歴史とは何だろうか、歴史の学習や研究はどんな意義や効用・社会的役割をもつのだろうか?<sup>2</sup>

**考察の手がかりとしての問い 1:** ある物事(例: 学問分野)を説明することは、他の物事と共通の物差しや言葉づかい(たとえば OS)、それを踏まえた他の物事との比較などを抜きにしても可能だろうか。またそういう物差し・言葉づかいや比較についての教育は、どんな場で(高校? 教養教育? 専門教育? どんな科目として?)行われるべきだろうか。それともそれは、中学校レベルないし高卒程度の常識で十分なのだろうか。それでは不十分だと考えた場合には、日本の高校・大学教育での教養系教育にはどんな不足があると考えられるだろうか。

**考察の手がかりとしての問い 2:** 日本の歴史学者・教員や専攻した学生は、歴史とは何か、それはどんな意味をもつかを語る際や、歴史学無用論に対して反論する際に、なぜ「過去との現在との対話」「教訓を学ぶ」「現実に対する批判精神を身につける」など単純な説明しからない(できない)のだろうか。なぜ教

<sup>1</sup> 高校地歴科の新科目「歴史総合」や選択科目「世界史探究」「日本史探究」では、単元(例: 国民国家形成、世界大戦)について、メインクエスチョンを立て、それについて各時間に個々の問いや資料にもとづいて順次考察して、最後にメインクエスチョンに対する理解に達するような学び方が想定されている。なお教科書には標準的な問いや資料が掲載されるが、教室でそれを学校や生徒の条件/関心に合わせてカスタマイズすること、最後には単元レベルの理解を踏まえた新たな問いが生まれることなどが期待されている。

<sup>2</sup> 私なりの答えは 2020 年度までに「市民のための世界史」または「歴史研究の理論と方法」を履修した学生は一度聞いているはずである。以前の授業で学んだ関連事項を思い出す(予習しておく)ことをはっきり求めるのは、大学生をあまりに馬鹿にした態度かもしれない。それらを受講していない学生は、『市民のための世界史』および新著『市民のための歴史学』(後者は「歴史の公式」を含む)に書いてあるので、急いで参照していただきたい。

養科目や入門講義でも、理系（教養課程に「〇〇学の考え方」と「〇〇学の話題」を並立させ、前者で学問の体系的説明、後者で先端研究の例示をする）で当たり前の、学問の対象、方法、目的、意義ないし役割などを複数の要素を組み合わせた体系的な説明をせずに（できずに）、自分の研究など個別例のわかりやすい提示ししかない（できない）のだろうか。

**考察の手がかりとしての問い3：**日本の歴史学とその大学での専攻編成や学会組織のあり方、大学のカリキュラムなどはどんな特徴をもつだろうか。理系の学問・カリキュラム（ある学問分野全体をカバーする会員数万人の学会がある、）と比較しながら考察せよ。

## 2. より具体的な考察のための例題群

### A. ことばのOS<sup>3</sup>

**(例題1)** 日本語の特質の理解と論説文の読み書き能力について、従来型の中学・高校レベルの素養のままで、大学の歴史研究や論文執筆は可能だろうか。

**(例題2)** This is a pen.について、いろいろな場面を想像しながら、「これはペンです」以外に4通り以上の和訳を与えよ。

**(例題3)** 主語が省略されたり時制をきちんと表現しない日本語、食堂で料理を注文する際に「僕はウナギだ」などと言ってしまう日本語は、論理的ではないという、今でも根絶されていない言説はどこが非論理的か説明せよ。上の言説が日本語を何語と比べているかに注意すること。

**(例題4)** 日本語は論理的ではないことを認めたくて、四季に関する繊細な表現、擬声語・擬態語の多様な存在、「思う」「想う」「念う」「惟う」など漢字の使い分けなどを根拠に、外国語にない微妙な感性の表現には優れている」という言説も根絶されてはいない。これまた、日本語を何語と比べているかにも注意しながら、その矛盾や無知を論ぜよ。

**(例題5)** 近代以前の日本に科挙試験（四六駢儷体や八股文の答案が必須。それは漢詩作成技術とも密接に関連する）がなかったことは、近代以降の日本人の漢字の理解・使用にどんな限界と利点をもたらしたか考えてみよ。

### B. 科学性とは何か【ここが一番本質的】

**(例題5)** すべての「科学」が、**数学的に表現できる法則や定理・公式・モデルにもとづく「条件が一定ならどんな場合にも、だれがやっても同じ結果が出る唯一の正解」（そこに偶然や個体差、研究者の価値観などは全く作用しない）を追求しているだろうか。** そうでない学問分野の例を、高校世界史で習うような理系の主要学問分野の中から挙げよ。またそこでは、法則や定理の代わりに何が科学性（正しさ）の証明になるかも説明せよ。それらを考える際には、基礎科学と応用科学の区別はもちろんだが、理工系と医歯薬・生命系など分野による違いに特に注意すること（マクロ経済学の証明に必要な教養課程の学問は何かという問いも、参考になるかもしれない）。

**(例題6)** 遅塚忠躬は歴史の法則性を疑い歴史観の主観性を認めつつ、歴史研究（史実の解明と歴史像の提示）の方法論として「資料立脚性と論理整合性の2つが不可欠」としている〔遅塚2010〕。では歴史学の方法論は、自然科学と共通点を持たないだろうか。資料の性質についての自然科学の一部との共通点、論文の書き方における自然科学一般との共通点などに着目して論ぜよ。

**(例題7)** そのような歴史学の「資料立脚性と論理整合性による史実の解明方法」は裁判での犯罪や不法行為に関する事実の証明方法とどこが違うだろうか。何が証明の基準とされるかに着目して説明せよ。

**(例題8)** 自然科学や工学・技術系の専門家にも必要な歴史や哲学の素養（知識・考え方）は、科学技術を暴走させないために（過去の成功や失敗の教訓を学ぶために）必要な倫理など、その科学・工学にとっては外在的な内容ばかりだろうか。その分野の理解や思考を深める方法自体に歴史が内在的に関わるような性質をもつ学問領域は存在しないだろうか。環境問題やビッグヒストリーをヒントに考えよ。

<sup>3</sup> ことばとそれが表現しうる論理・概念や理論に関する筆者の理解と危機感は、〔新井2019〕〔勝又2019〕〔鳥飼・荻谷・荻谷2019〕などにもとづく。

(例題9) 「歴史とは何か」について一般的説明は、たとえば「言語とは何か」と「言語学とは何か」の説明をごっちゃにしていけないだろうか。それでいいのだろうか。そうならざるをえない理由はないだろうかという点も含めて、整理して考えてみよう。

### C. 学問と社会もしくは古典教育論争を他山の石とする方法 [生徒・学生の進路選択には10、11がきわめて大事。教科・科目としては12がカギ]

(例題10) ある学問や産業が「世の中の役に立つ」というのは、富や便利さを増加させることだけを意味するだろうか。そうでないやり方で「世の中の役に立っている」学問や産業の例を、「人文学など役に立たない」と平気で言うような経済界や理系でも認められている、人文学以外の「実用的」諸分野の中から挙げよ。

(例題11) 逆にそういう人々にとって役に立たない(成果が出ないという意味でなく成果が出ても富や便利さが増加しない) 理系の学問の例、一方で世の中に便益や楽しみを与え十分「カネになる」人文系の学問の例を挙げよ。

(例題12) 「あらゆる理論は政治性をもつ」という命題が真実だとして、それでは理論や概念を避けて事実とその考証に徹すれば、「政治性をもたない完全中立の学校教育や学問」は可能かどうか、多元的民主主義の国家・社会にそれが望ましいかどうかについて議論せよ。18歳選挙権だけでなく、個々人の自由な(自主的な、自律的な) 学びの保障という観点からも考えること。

(例題13) 狭義の実用性や経済性よりもっと広い意味で、歴史など人文系の教育・研究も「社会の負託」に応えるべきだと考えた場合、これまでの日本の歴史教育・歴史研究の方法や対象の選定、内容構成にはどんな不足や欠点、古さがあっただろうか。上の各例題も踏まえつつ自由に論ぜよ。

### 3. 理屈っぽいことや実社会を考えずに好きな歴史の本だけ読んでいたい若者にはつらい世の中を、どう生きていくのか: 「急がば回れ」で「コロンブスの卵」を見つけるための課題

**課題1:** 「個性と自由」「学問の自律」の名の下で「ウインドウズ以前のOSを登載したパソコン」や「ワープロ専用機」を量産する人文学教育、歴史教育は正当化しうるか<sup>4</sup>。歴史学のプロも、スポーツ選手や芸術家・芸能人のように「よいプレーを見せる」「よい作品を創る」ことがすべてだという考えは、スポーツや芸術・芸能の場合にないどんな限界をもつだろうか。スポーツや芸術・芸能の場合を参考にすると、その限界を突破するにはどんな人材や仕事が必要だろうか。「スポ根型」をとっくに脱した現在のスポーツのトレーニングや宣伝の方法、文学・芸術系専攻の卒業生がする仕事、また大阪大学COデザインセンターの科学技術社会論などの取り組みも参考にしながら構想せよ⇒なおそこで、日本の家や村、職人芸と徒弟制などの伝統がどんなものか、それが企業社会をどう縛り、「幅広い教養」や「大局的視野と判断」をどう阻害してきたかを学ぶとよむ。

**課題2:** ヨーロッパ中世の大学の自由7科や科挙のための朱子学の学び、国際バカロレア DP コースの基礎科目「知の理論 Theory of Knowledge」などが示唆する、現代の大学に求められる歴史的な「教養」とそれを涵養する教養教育(高校から大学院まで)のあり方を、1~2単位の人文学基礎科目や、教科横断型の「総合的探究」の指導を求められている現職教員用の3時間程度の研修プログラムとして組み立てるプランを作れ。

**課題3:** 以上を論じるには、大量の専門書を読む必要があって普通の学生や教員にはとてもムリだという意見にあなたはどの程度賛成か、根拠を挙げて説明せよ。その際、歴史学専攻の学部生・院生が専門書や原史料を読む訓練と、新聞を読む訓練(子供の時から新聞を読む習慣)の長所と短所に、新聞を読むことが「ことばと学知のOS」に不可欠である側面に注意しながら言及せよ。

<sup>4</sup> 1980年代以降の日本の知識人や大学の、こうした面での迷走については[荻谷剛彦2019]が参考になる。

## 参考文献

- 新井紀子 2018. 『AI vs 教科書が読めない子どもたち』 東洋経済新報社.
- 大阪大学歴史教育研究会（編） 2014. 『市民のための世界史』 大阪大学出版会.
- 勝又基 2019. 『古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた』 文学通信.
- 苅谷剛彦 2019. 『追いついた近代 消えた近代 戦後日本の自己像と教育』 岩波書店.
- 遅塚忠躬 2010. 『史学概論』 東京大学出版会.
- 鳥飼久美子・苅谷夏子・苅谷剛彦 2019. 『ことばの教育を問い直す——国語・英語の現在と未来』 ちくま新書. [序]
- 桃木至朗 2009. 『わかる歴史・面白い歴史・役に立つ歴史—歴史学と歴史教育の再生を旨として』 大阪大学出版会.
- 桃木至朗 2022. 『市民のための歴史学 テーマ・考え方・歴史像』 大阪大学出版会.
- Sue Bastin, Julian Kitching, Ric Sims 著、大山智子訳・後藤健夫編 2016. 『Theory of Knowledge セオリー・オブ・ナレッジ 世界が認めた「知の理論」』 Pearson.